プレスリリース

2025 年 4 月 24日
京都府福知山市

# 漫画家生活 30 周年
# こうの史代さんが暮らす福知山にて「こうの史代展」 開催決定！
# 500 枚以上の漫画原画、カラーイラスト、絵本原画等多数展示

**会期：2025 年 6 月 8 日(日)～7 月 27 日(日)　会場：福知山市佐藤太清（さとうたいせい）記念美術館**

《空色心経》カバーイラスト、2025 年 ©こうの史代/朝日新聞出版

《この世界の片隅に》2006 年 ©こうの史代／コアミックス

京都府福知山市は、漫画家生活 30 周年を迎えた本市在住の漫画家こうの史代さんの過去最大規模の展覧会を 6 月 8 日～7 月 27 日の期間、福知山市佐藤太清記念美術館にて開催します。

大ヒット作「夕凪の街　桜の国」（手・治虫文化賞新生賞、文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞）や「この世界の片隅に」（文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞）をはじめ、福知山市が舞台の最新作「空色心経」など 500 枚以上の漫画原画、絵本原画、作品のコンテやメモ、制作風景を記録した初公開の映像を展示します。「こうの史代展」は金沢21世紀美術館（5月 2 日～25 日）からスタートし、福知山にて開催後、全国巡回展示をする予定です。

## 1 「こうの史代展」について

展覧会名：漫画家生活30周年　こうの史代展
　　　　鳥がとび、ウサギもはねて、花ゆれて、走ってこけて、長い道のり
開催期間：2025年 6 月 8 日（日）～7 月 27 日（日）　休館日：毎週火曜日
　　　　9 時00分～17 時00分　（ただし入館は 16 時 30 分まで）
　　　　※会期中、前期・後期と展示替えを行います。展示替日は改めてお知らせします。
内覧会：2025年 6 月7日（土）にメディア向けの内覧会を開催します。
　　　詳細は改めてお知らせします。
開催場所：福知山市佐藤太清記念美術館　（京都府福知山市字岡ノ 32-64）
入館料：大人 720 円　子ども 350 円　※通常料金と異なります。
主催：福知山市　福知山市佐藤太清記念美術館
協力：呉市立美術館、コアミックス、朝日新聞出版、日本文芸社、平凡社
監修：福永信
企画：青幻舎プロモーション
HP：https://www.city.fukuchiyama.lg.jp/soshiki/7/74944.html

メインビジュアル
《描く人》2024 年

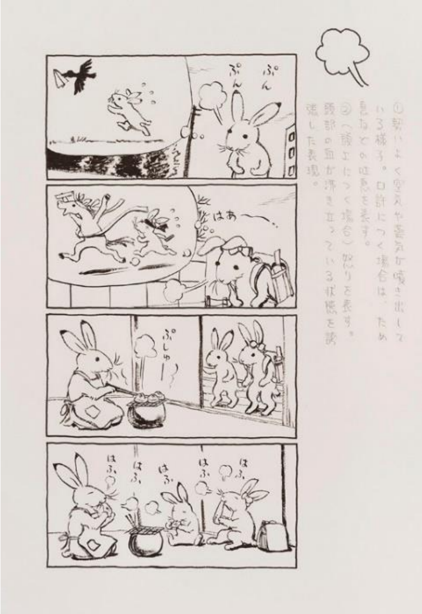
## 2　こうの史代さんと福知山市の関わり

〇こうの史代さんは、2016 年に京都府福知山市に移住。
〇福知山ゆかりの武将・明智光秀が主人公の大河ドラマ放送終了後、福知山城公式サイト立ち上げにあわせて、本市からの依頼でイラスト「麒麟のいる街」を描きおろし。イラストは、福知山市役所職員の名刺やいがいと！福知山ファンクラブの市外会員証などでも使用されている。
〇福知山市立図書館開設 100 周年を記念し、「こうの史代『荒神絵巻』作品展」を開催（2025 年）。また図書館雑誌スポンサー制度により、こうのさんは 6 誌の雑誌を提供している。
〇福知山市内唯一の映画館「福知山シネマ」は、こうのさんイラストの懸垂幕を掲げるほか、過去にこうのさんのトークショーや原作映画「この世界の片隅に」上映とパネル展示を実施。
〇こうの史代さんの最新作「空色心経」（朝日新聞出版）では、福知山を舞台に由良川の河川敷などが細やかに描かれている。

「麒麟のいる街」こうの史代

## 3　見どころ

■漫画家こうの史代さんの過去最大の展覧会
大ヒット作「夕凪の街　桜の国」「この世界の片隅に」の原画展はこれまで数多く開催されてきましたが、デビューから現在までを網羅した大規模な回顧展は、本展が初めてです。500 枚以上の漫画原画を展示、膨大な挿絵原画、絵本原画、作品のコンテやメモ、ブログ「こうのの日々」に登場するスケッチブック、制作風景を記録した初公開の映像など、こうの史代さんの画業のすべてがわかる展覧会です。




①

②

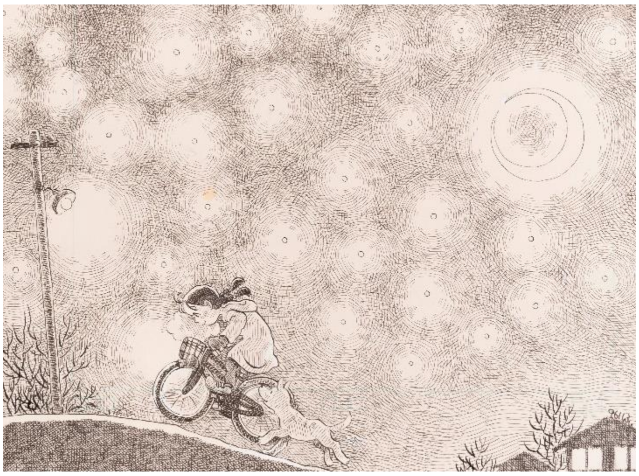
③

④

①《ギガタウン　漫符図譜》2016 年 ©こうの史代／朝日新聞出版
②《ぴっぴら帳(ノート)》1 巻カバーイラスト、2000 年 ©こうの史代／コアミックス
③ 制作風景　展示予定の動画より(撮影:白井茜)
④《日の鳥》2巻表紙イラスト、2016 年 ©こうの史代／日本文芸社

※作品キャプションはすべて掲載初出年ないしは制作年を記載しています。

■デビュー前の貴重な原画も展示
デビュー前の原稿、また高校生の頃に制作した漫画の原画も展示します。すでにこうの史代さんならではのタッチが、楽しい漫画の世界に誘います。


⑤

⑥

⑤《星月夜》(「太田川」表紙、広島太田川ライオンズクラブ、1996 年) ©こうの史代
⑥ WEEKLY 漫画アクション新人賞募集イラスト、1992 年 ©こうの史代

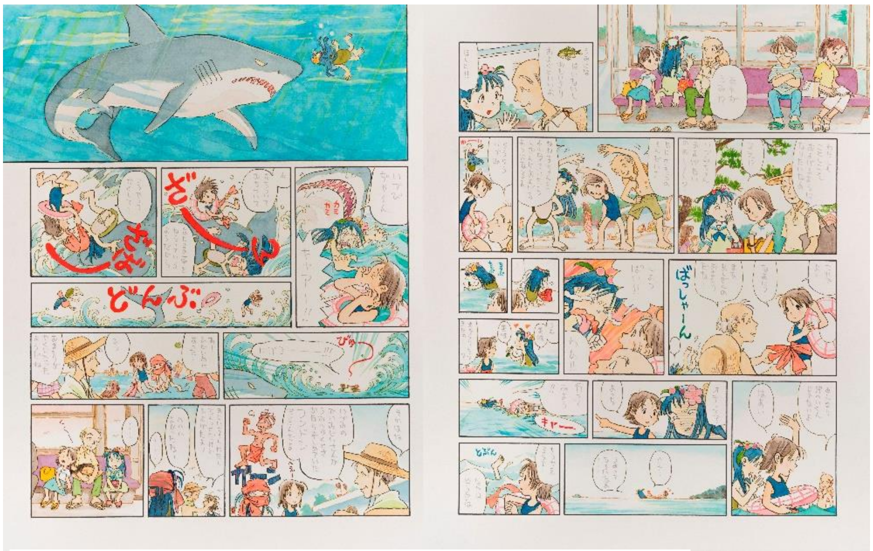
■「1 枚の絵」としての漫画原画
こうの史代さんはその初期からアシスタントを起用せず、原稿をすべて一人で描いています。着彩も本人がやっています。また一部を除いて、スクリーントーンをほとんど使用していません。原画で私たちが見ているのは、作者自身の手によって描かれた線です。「1 枚の絵」として、その線の躍動する魅力、新鮮な色彩の力を感じていただけると思います。

⑦

⑧

⑦《長い道》2001 年 ©こうの史代／コアミックス
⑧《街角花だより》1995 年 ©こうの史代／コアミックス

■展示は「読める」ように工夫
連載作品の場合は1話単位、短編は全ページを基本に原画を展示いたします。作者が構成したストーリーを分断せず、制作しているその時の「漫画家の気持ち」を体感することができます。各単行本のカバーのカラー原画も必見です。




⑨

⑨《かっぱのねね子》その 5、2001 年 ©こうの史代／朝日新聞出版

## 4 関連イベント

会期中のどこかで、こうの史代さんご本人によるライブペインティングを行います。
日時等詳細は 5 月中旬頃にお知らせします。

## 5 漫画家こうの史代さんについて

1968 年広島市生まれ。広島大学理学部中退。放送大学教養学部卒。1995 年、「街角花だより」の連載で漫画家デビュー。インコとの日常を描く4コマ漫画「ぴっぴら帳（ノート）」で人気を博す。ニワトリと少女のユニークな日々を綴ったショートストーリー漫画「こっこさん」、子供の心を見開きページに釘付けにしたカラー漫画「かっぱのねね子」も同時期に連載。夫婦の気ままでコミカルな永遠の一日を捉えた「長い道」、こうの自身より年齢が上の主人公を初めて描いたドタバタ二世帯喜劇「さんさん録」でさらなる新境地を開く。原爆の被害とその後に続く“終わっていない”日々を真摯に紡いだ「夕凪の街 桜の国」を発表し、話題に。同作で第 9 回手・治虫文化賞新生賞、第 8 回文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞受賞、映画化やドラマ化もされた。広島の軍都・呉の戦災を描く「この世界の片隅に」は、戦前から戦後まで、個人の時間を奪う戦争の惨禍のすべてを、日常の低い視点から力強く描いた。本作は第 13 回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞を受賞、またアニメーション映画（片渕須直監督）がロングラン大ヒットを記録。こうのにとっても集大成的な作品となった。その後も漫画という表現に対する好奇心は尽きず、非凡な才能炸裂のエッセイ漫画「平凡倶楽部」、ボールペンだけで古事記を忠実に漫画化した「ぼおるぺん古事記」（古事記出版大賞稗田阿礼賞受賞）、東日本大震災の翌年から描き継がれている「日の鳥」、漫符を素材にした画期的な漫画図鑑「ギガタウン 漫符図譜」、百人一首と遊んだ華麗なるカラー1コマ漫画「百一 hyakuich」など、ひとつとして似ていない作品を続々と発表。最新作「空色心経」では般若心経とコロナ禍の日々を2色の糸で撚り合わせるように重ね、時空を超えた世界と日常を結んでみせた。ブログ「こうのの日々」では「空色心経」の制作過程やインコＴさんとの日常、日々のスケッチなどを公開している。

## 6 監修者のコメント

こうの漫画を読んでいて、ふと気づくのですが、彼女の漫画には、1 冊も似た作品がありません。

そしてまた、ふと気づいて驚くのですが、こうのさんの描く漫画は、いつも、ほとんど同じタッチで描かれています。
これが漫画だよな、と思わせる、読者をほっとさせる、あの愛らしいタッチのことです。

4コマ漫画でも、ほのぼのショートストーリーでも、神話ものでも、戦争ものでも、あの絵柄で一貫して描いてあります。戦争ものだから、と、急にシリアスな絵柄で、無理に描くことがないのです。

古代や現代、戦争や平和、動物や人間、どんなに世界が違っても、同じ毎日が続いている、かけがえのない時間が流れている、こうのの描く漫画を通じて、読者はそう感じることができるでしょう。

こうの史代は、まだ漫画になってないこと、誰も手掛けてないこと、手薄なところを探して漫画にしていく、漫画の世界の冒険家です。
だから読者は、彼女の漫画を読むたびに、こんな世界知らなかった！と、いつも思うのです。

そして、そんな読者に、彼女は、漫画の中から、こう呼びかけているようです。
見慣れたはずの「漫画」という表現が、新鮮な姿に見えてきたでしょ？　ほら、まだこんなに描くことがあるよ、君も来ない？

1 人の漫画家として、こうの史代が歩いてきたすべての道のりを、この展覧会ではたどります。

今回、佐藤太清記念美術館では、会場の広さの都合から、前期と後期で、作品の展示替えをする予定です。
見ていただくには、少し面倒をかけてしまいます。
でも、どちらを見てくださっても、充実の内容になるよう展示構成しています（もちろん、両方見ていただくのもうれしいです！）。楽しみに待っていてくださいね。

福永信（本展監修者/小説家）

## 7 監修者　福永信さんについて

1972 年東京都生まれ。京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）芸術学部中退。1998 年、短編「読み終えて」でリトルモア・第 1 回ストリートノベル大賞を受賞しデビュー。主な小説集に「アクロバット前夜」、「コップとコッペパンとペン」（表題作でユリイカ Z 文学賞受賞）、「星座から見た地球」、「一一一一一」、「実在の娘達」などがある。アンソロジー編集に「こんにちは美術」、「小説の家」（第 4 回鮭児文学賞受賞）、企画編集に「フジモトマサル傑作集」、展覧会企画協力に「カワイオカムラ　ムード・ホール」展、「絵本原画ニャー！　猫が歩く絵本の世界」展、「芦屋の時間　大コレクション」展など。「遠距離現在　Universal/Remote」展図録に短編小説を寄稿。2015 年、第 5 回早稲田大学坪内逍遥大賞奨励賞受賞。

【本件に関するお問合せ】福知山市役所文化・スポーツ振興室　文化振興係
TEL：0773-24-7033　FAX：0773-2-7118　E-mail：bunspo@city.fukuchiyama.lg.jp

京都府
福知山市
在住

『夕凪の街 桜の国』（手塚治虫文化賞新生賞、文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞）

『この世界の片隅に』（文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞）で知られる、

こうの史代の全貌に迫る初の大規模原画展を地元で開催！

《描く人》 2024年 ©こうの史代

漫画家生活

30周年

# こうの史代展

2025年6月8日(日)～7月27日(日)

前期・後期展示替えあり

鳥がとび、
ウサギもはねて、
花ゆれて、
走ってこけて、
長い道のり

## 福知山市佐藤太清記念美術館

〒620-0035 京都府福知山市字岡ノ32-64 TEL&FAX.0773-23-2316

9:00～17:00（入館は16:30まで）

入館料／一般720円、小中学生350円
休館日／火曜日

主催／福知山市、福知山市佐藤太清記念美術館 監修／福永信 協力／呉市立美術館、コアミックス、朝日新聞出版、日本文芸社、平凡社 企画／青幻舎プロモーション

漫画原画500枚以上
カラーイラスト、挿絵原画
絵本原画など多数展示

《空色心経》カバーイラスト、2025年 ©こうの史代／朝日新聞出版

こうの史代(1968-)は、漫画というフィールドで、実に多彩な表現活動をしてきました。
お花屋さんが舞台のコミカルなショートストーリー連載『街角花だより』(1995)でデビューし、インコとの日常を描く4コマ漫画『ぴっぴら帳』(1997-2004)で人気を博します。ニワトリと少女のユニークな日々を綴った『こっこさん』(1999-2001)も忘れることはできません。"命あるものと共にある日常"を見つめた、これら初期作品の世界観があって、『夕凪の街 桜の国』(2003/2004)、『この世界の片隅に』(2006-2009)へつながっていくことになります。
もちろん、それは到達点ではありません。こうの史代はさらに先へ進みます。漫画という表現に、誰よりも強い好奇心を持っているからです。
非凡なアイデア満載の『平凡倶楽部』(2006-2010)で読者を驚かせたかと思えば、『ぼおるぺん古事記』(2011-2012)ではボールペンだけで「古事記」を忠実に漫画化しました。東日本大震災の翌年から連載を開始した『日の鳥』(2012- )は、妻を探す雄鶏の目を借りて、移りゆく時の流れをスケッチしています。
漫符を素材にした画期的な漫画図鑑『ギガタウン 漫符図譜』(2015-2017)、「百人一首」と遊んだ華麗なカラー1コマ漫画『百一 hyakuichi』(2018-2020)、「般若心経」をコロナ禍と重ね、2色の線が絡み合う最新長編『空色心経』(2023-2025)など、新しい漫画の可能性へ向けて、挑戦は続きます。
こうの史代の特徴として、アシスタントを使っていないことが挙げられます。そのため、どの線にも彼女の気持ちがこもっています。たった一人で描いた「一枚の絵」として原画を見ることで、これまで気づかなかった線の魅力、色の力を感じていただけることでしょう。
本展では、10代の時の作品から最新作まで、500枚以上の漫画原画を展示します。そのほかデビュー以前の貴重な資料の数々、膨大な挿絵原画、絵本原画、ブログ「こうのの日々」に登場するスケッチブック、制作風景を記録した初公開の映像など、こうの史代の画業のすべてがわかる展覧会です。
会場の広さの都合から、前期と後期で、作品の展示替えをする予定です。見ていただくには、少し面倒をかけてしまいます。でも、どちらを見てくださっても、充実の内容です！(もちろん、両方見ていただくのもうれしいです！)。楽しみに待っていてくださいね。

**こうの史代**
(福知山市在住)

1968年広島市生まれ。広島大学中退、放送大学卒。2016年に福知山市に移住。
1995年に漫画家デビュー。『長い道』『かっぱのねね子』『さんさん録』など作品多数。アニメーション映画『この世界の片隅に』(片渕須直監督)が大ヒットを記録した。
ブログ「こうのの日々」では福知山市が舞台の最新作『空色心経』の制作過程、日々の写真やスケッチを公開している。

《夕凪の街 桜の国》カバーイラスト、2004年 ©こうの史代／コアミックス

**ライブペインティング**

会期中こうのさんのライブペインティングを開催予定！ 日時等詳細は後日HP等で発表します。

**グッズ**

見て楽しい、買ってうれしい、本展のためのこうの史代グッズが多数勢揃い！

**会期中前期・後期で展示替えを行います。詳細は後日HP等でお知らせします。**

《ぴっぴら帳》口絵、2004年
©こうの史代／コアミックス

# 福知山市佐藤太清記念美術館

〒620-0035 京都府福知山市字岡ノ32-64 TEL.0773-23-2316
お問合せ／福知山市 文化・スポーツ振興室 TEL.0773-24-7033

**車**
［京都から］約1時間45分
京都縦貫自動車道、国道9号で約85キロ
［大阪から］約1時間30分／中国自動車道、舞鶴若狭自動車道で福知山I.C.へ、約100キロ

**鉄道**
［京都から］約1時間15分
JR山陰本線(特急)で福知山駅下車、徒歩15分
［大阪から］約1時間30分
JR福知山線(特急)で福知山駅下車、徒歩15分